# 言葉の民主化

市川（いちかは） 浩（ひろし）

昭和二十年以降の我が國戰後思想の歴史を昭和六年生れの同時代人とて今日回顧するに、それ以前の大正デモクラシーを始め昭和初期より前の大戰末期まで約二十年間の思想動向は實體驗上は無論の事、學校の授業や書物にても知る事尠し。一方この時期に青春のたゞ中を過ぐせられける一世代前の先輩方には既知の思想なりけむも、學徒動員等もありてか、また我らに語り告ぐる殆どなかりき。かくて中學二年生にして祖國の敗戰を迎へ、それまでの言論に代る民主主義を新たに聞くに至る。特に占領下の大衆報道は只管我が國文化の封建性、非近代性を批判し、これに代る「民主的」文化を唱道す。其の一つに國語の「非民主的性格の矯正」ありて、戰後の「國語改革（language reform）」を「國語の民主化」とて、積極的に支持す。

一つの例を示すに「情は人のためならず」なる格言あり。この意味する所を

（ア）「人に情けを掛けておくと，巡り巡りて結局は自分のためにもなる」

（イ）「人に情けを掛けて助けてやることは，結局はその人のためにならない」

の二つの意味の内正しと思ふは何れかを問ふに、全體では，本來の意なる（ア）を選擇せる人の割合と，本來の意味に非ざる（イ）を選擇せる人の割合とが，ともに46％弱となれり。然るに年代別のグラフを見るに、60歳以上を除く全ての年代に於て（イ）を選べる人の割合の方が多かりけり（「國語に關する輿論調査」平成二十二年度）。

これに對する文化廳の見解は次の通りなり。

この言葉を本來とは違ふ意味で理解してしまふのは，「ためならず」の解釋を誤ってしまふからだと考へられます。もし「情けは人のためにならず」といふのであれば，「その人のためにならない」と受け取れるでせう。しかし，「人のためならず」の「ならず」は，〔断定の「なり」〕＋〔打ち消しの「ず」〕ですから，「である＋ない＝〜でない」という意味になり，「人のためでない（＝自分のためである）」と讀み取る必要があります。ここのところがはつきりしないことが「人のためにならない」と解釋する人を增やしてゐる理由だと考へられます。（文化廳月報平成24年3月號）

國の言語の發展を促す官廳の見解として、かゝる事例に對しては、先づ正答率を高むべき方策を提示すべきに非ずや。またこの格言の意味する所は情（なさけ）卽ち他人の窮狀に手を差伸ぶるは世間に於ける義務なるを敢て否定表現を用ゐて強調すと解すべく、後々自らも他人の情を受くべき定めを自覺せよと戒むるなり。右の「人のためでない（＝自分のためである）」と讀むは我が國の文化としての「情」を貶しむる懼れ無きにしもあらず。

問題はこれに止らず。「斯くも多數が意味を取違ふるは最早誤りに非ず、格言の意味も時代と共に變化するを理解すべし」との言、「言葉の民主化」とて、反對を許さぬ勢あり。然ればこの格言の眞の實行とて、被災地へのボランティア活動に勵む人に、被害を受けたる人のためにならぬ事をするなと言ふか。同種の問題はこれ以外にも、前にも指摘せる「何時の日にか國に歸らむ」は「國に歸る可能性なし」の反語表現なるに、「何時か必ず國に歸るぞ」の意思表示表現と誤解せらるゝなど、而もこれらを指摘するをさへ思ひ止まらする「言葉の民主化」無言の壓力今や絶大なり。

（引用部の表記は地の文に統一）

（令和二年三月二十九日）